

セカンドスクールに向けて その7 「ロゲイニングの巻」

今回はセカンドスクールで実施予定の「ロゲイニング」について見ていきます。

「オリエンテーリングというのは聞いたことがあるけど、ロゲイニングというのは聞いたことがない…。」
こんな印象が多いのではないのでしょうか。ロゲイニングというのは、地図やコンパスを使って、定められたエリア内に多数設置されたチェックポイントをできるだけ多く制限時間内に廻り、得られた点数を競う野外スポーツの名称です。オリエンテーリング、トレイルランニング、ハイキングなどの要素を組み合わせた競技で、アウトドア愛好家や冒険家に人気があるようです。



ロゲイニングのチェックポイントには「得点」があり、制限時間内にできるだけ高得点になるように廻って総得点を競います。廻る順番は自由。対してオリエンテーリングは、チェックポイントを順番通りに通過し、ゴールまでの所要時間を競うというものとなっています。1976 年の 4 月、オーストラリアのメルボルンでこのスポーツの名称とルールが決められ、世界初のロゲイニング協会ができたことによって、ロゲイニングという競技が正式に誕生、世間に広まることとなりました。



「ロゲイニング」という呼び名は、1970 年代に競技大会を多数開催した団体のメンバーであるロッド・フィリップス（Rod Phillips）、ゲイル・デーヴィス（Gail Davis）、ニール・フィリップス（Neil Phillips）の三人の名前の頭文字をとったものであるとも、ナビゲーションと忍耐力を要する険しい野外での団体活動を意味する、「**Rugged Outdoor Group Activity Involving Navigation and Endurance**」を略したものであるともされています。

ロゲイニングは、チェックポイントを廻るという点ではオリエンテーリングと似ていますが、上記のように、その競技内容はちょっと違ったものになっています。オリエンテーリングは、定められたチェックポイントを全部、順番通りに、いかに早く廻るかということが条件で、とにかく**速さ**が要求されるものとなりますが、ロゲイニングは速さではなく、決められた時間内にいかに効率的にチェックポイントを廻れるかという**戦略性**が要求されます。どういう順番でどのチェックポイントを廻れば、より少ない疲れで、より多く得点が取れるかという作戦をチームで相談し、仲間と協力しながら実行をしていくというのがロゲイニングの特徴です。経路の判断や時間の計測、お互いの体力への配慮など、チームで協力して競技を行っているうちに仲間同士の親睦が深まったり、チームワークが強くなったりするというものです。

現在、ロゲイニングは世界各地の幅広い年齢層で人気が出てきているようで、本格的な選手権大会ともなると、競技時間が 24 時間（フル）や 12 時間（ハーフ）といった長丁場の、休憩や食事の取り方も戦略に含まれるという熾烈な戦いになるものもあります。また、それほどガチでなくても、地域の観光イベントとして開催されるような、観光名所を回ったり、チェックポイントでご当地グルメが楽しめたり、ポイントに応じてプレゼントがもらえたりするレクリエーション要素の強いイベントとしての「観光ロゲイニング」と呼ばれるものや、町中で気軽に楽しめる「街ロゲイニング」と呼ばれるものもあります。また、スタート地点で渡された見本と同じ写真をチェックポイントで撮影することで得点を獲得する「フォトロゲイニング」と呼ばれるものなどもあるようです。このように、各地で盛り上がりを見せているロゲイニングですが、白馬村で過去に行われた「ロゲイニングダービー」での競技ルールは、次のようなものでした。

- 年齢・性別問わず、1 チーム 2～5 名でチームを構成
- 競技時間は 90 分 制限時間をオーバーしてゴールした場合は減点
- チェックポイントを回る順番は任意
- 各チェックポイントの得点は、難易度により 20～100 点
- 制限時間を 30 分以上オーバーした場合は失格

さて、セカンドスクールでのロゲイニング、本番はどんなものなるのでしょうか。楽しみですね。

